生活クラブ 生活協同組合 東京
2023年7月 発行

生活クラブ 2030 行動宣言

東京版 22年度 実績報告レポート

SDGsの理念に通じ、かつ留まらない活動を ―。

2015年「持続可能な開発目標（SDGs）」が国連で合意され、貧困や飢餓、気候危機など人類全体の課題を解決するため、17の世界的目標が掲げられました。
生活クラブではこれまでも「食・エネルギー・福祉」の自給、生産から消費・廃棄に至るすべての過程で「安全・健康・環境」を追求し、先駆的な活動を進めてきました。それらをふまえ、2030年までに目指すべきものとして『生活クラブ2030行動宣言』を決定しました。

その中でも地域で進める方針を東京版として策定。東京独自の2022年度の取組みを報告します。日々の選択や一歩踏み出すことで達成に近づく目標です。生活クラブに関わるみんなで、サステイナブルな未来をつくりましょう。

	取組み	実績
1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。	**1-1** 組合員の食べる力を強化することで、都市近郊農業の生産と持続性を支えます。 **1-2** 援農や農業体験などを通して産地との交流を深めることにより、ローカルSDGsを推進します。	**1-1** デポー出荷生産者（多摩南／デポー八王子みなみ出荷）が**1人増**えました。 **1-2** 提携生産者との協議を経て、組合員による**援農の動き**が**誕生**しています。
2 素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。	学校給食に化学調味料や食品添加物に頼らない質の良い調味料・食材の使用を働きかけます。	**27自治体に**消費材が**供給**されています。
3 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候危機対策に取り組みます。	**3-1** 東京独自品やデポーでの容器包装のプラスチックの使用を削減します。 **3-2** 林業促進と森林環境保護のため、住宅事業や東京独自品で東京産木材の活用を推進します。 **3-3** 温室効果ガス削減のため、配送センター車両のEV化をすすめます。	**3-1** 配送では、東京独自品にてスタッシャーセット麻紐使用による**無包装化を実現**。デポーでは、バックシーラーの紙化を進めているほか、プラスチック削減に向け**包材メーカー**の開発状況を**調査中**。デポー石神井では**せっけん類の量り売りの実験取組み**をすすめています。 **3-2** 杉・檜、漆喰、い草などの**国産材を使用した住まいづくり**をすすめました。 **3-3** 多摩統合、葛飾センターに導入。
4 社会の存続をおびやかす危機への対策をすすめ、暮らしと未来を守ります。	大地震など災害時への対策をすすめ、組合員への供給責任を果たすと共に、被災時においてはセンター・デポーを拠点にし、まちコミュニティと連携し地域に貢献します。	災害時のエネルギー確保に向けて**現地調査**を実施。**防災備品**などの**調整**を進めています。
5 原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組みます。	再生可能エネルギーの意義をひろめていくことにより、原発を再稼働させない活動を推進します。	原発推進に反対する**パブコメ提出活動**の展開や**さようなら原発集会などに参加**し脱原発を呼びかけましたが、関西電力・九州電力で営業運転している状況です。

1-1

新規提携生産者
キテレツファーム **神田 賢志** さん

地球と人が末長付き合っていくための農業をめざし、2haの農地のうち1.2haをJAS有機に登録しています。地元での販路を模索していたため、畑の近所にあるデポー八王子みなみへの出荷はとても嬉しいことでした。
都内へ野菜を卸すことが多かったのですが、地域の中でも有機野菜への需要がしっかりとあることには少々驚きました。
今後も鮮度の高い野菜をお届けできるよう、努めて参ります。

3-1

まち石神井運営委員長
向 時子 さん

20年以上プラスチック類の環境汚染の問題に取り組んできた経験を活かし、デポー石神井での脱プラに取り組んでいます。
受け入れられるか心配の声もありましたが、組合員からの応援も後押しになり、定着してきました。
液体せっけんの量り売りはプラ削減に加え価格メリットもあり、せっけんの利用にもつながります。
脱プラがもっと進むよう知恵を絞っていきたいです。

デポー石神井のせっけんの量り売り

さようなら原発集会への参加

	取組み	実績
6 誰もが個性を活かしながら、安心して生活を営める地域と社会をつくります。	地域でたすけあえるコミュニティを増やし、地域での自発的で多様な活動を広げます。	**501コミュニティで活動**しました。**緊急物資配達受取訓練**は4ブロックで実施し、**新しく22コミュニティが形成**されました。
7 貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくります。	**7-1** 障がいやその他さまざまな理由で就労が困難になっている人が地域で働き続けられる場づくりとして、生活クラブのセンターやデポーでの就労受け入れをすすめます。 **7-2** 住宅確保要配慮者の住まいの確保など、居住支援の取り組みをすすめます。 **7-3** エッコロファンドを活用したこども基金を拡充させ、子どもや子育て家庭の支援に取り組みます。	**7-1 働きづらさを抱えた方**の就労訓練を受け入れるため、練馬センターで学習会を行い、**東京都へ就労訓練事業の申請**をすすめ、**認定を受けました。** **7-2 空き家・空き室活用**は4件の相談があり、内**1件が活用**につながりました。 **7-3** エッコロこども基金は、5団体+縁がわワーカーズ3団体の**8団体に助成**できました。**インクルファンド**は1団体に**213万円**を**助成**し活動に役立てられました。
8 非戦と共生の立場を貫き、平和で公正な社会をめざします。	**8-1** 草の根市民基金ぐらんの助成団体など社会的課題に取り組む団体との交流を深め、公正な社会づくりに寄与します。 **8-2** 非戦と平和のための学びの場を作り、平和で公正な社会をめざす活動をします。	**8-1** 2022年度登録寄付実績は登録人数 1,699人、登録口数 4,632口、登録寄付金額は 5,556,200円。これらの基金から**都内7団体**と**アジア1団体**に対して**3,447,000円**を**助成**しました。 **8-2** 安保関連3文書改正に反対し、**声明を出した**ほか関連団体の**共同声明に賛同**、**院内集会に参加**した。
9 ジェンダー平等と多様な働き方を実現します。	協同組合型の事業体であるワーカーズなどとの連携を強め、各地域におけるワーカーズ運動を推進します。	**コネクト推進機構の立ち上げ、冊子を発行**しました。**広報研修（全3回）**と「非営利市民事業・経営＋事業連携」**研修（全1回）を実施**しました。
10 他団体や行政と連携し、新たな環境保全活動に取り組みます。	シャボン玉月間の取組みなど、行政と連携し、環境保全活動に取り組みます。	シャボン玉月間の首長メッセージ取得活動を提案し**50自治体からメッセージ**、**2自治体から後援を取得**しました。 （2021年度 48自治体）
11 情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。	消費材Step Up点検の意義の理解をすすめ、消費材の利用推進、その後の運動につながる活動を展開します。	**23区南1回 北東京1回の計2回実施**。コロナ感染症対策により実施に制限がある中で、オンラインなど工夫しながら取り組みました。

6

コミュニティの成果

生活クラブ東京 副理事長
小寺 浩子さん

地域のつながりや運動グループから新規立ち上げを呼びかけ、新しく22のコミュニティが形成されました。
緊急物資配達受取訓練は4ブロックで実施し、エッコロたすけあい制度の活用だけでなく、防災・減災をテーマに地域におけるたすけあう関係性づくりを推進しました。コミュニティの状況を共有しながらサポート体制を検討しています。

7

エッコロ子ども基金助成先「みんなが育つねりま」による「おおいずみ子ども食堂」

8

安保関連3文書改正反対の院内集会

9

コネクト推進機構の広報研修

動画でも紹介しています

「生活クラブ2030行動宣言」について 詳しくは こちら

いま、2030行動宣言に取り組む意義

増田 和美さん
生活クラブ東京 2022年度 理事長

生活クラブ生協は設立から55年を迎えました。私たちは生活に必要なしくみを自分たちで考えつくり、おおぜいで利用することで共感の輪を広げ、持続可能な地域づくりをすすめています。ここ数年、気候危機による自然災害やコロナパンデミック、ロシアのウクライナ侵攻の影響も受けて食料安全保障の危機、貧困、格差の増大など解決すべき課題が山積みです。
「生活クラブ2030行動宣言東京版」は、東京全体で2030年に向けて具体的にすすめる行動宣言です。地域の機能や資源を生かしながらSDGsの実践をすすめることは、私たちが活動の基本においてきた「FEC自給圏*づくりと働く」、「つながるローカルSDGs」と重なり、地域を豊かに、ひいては世界的な気候危機や食料危機、格差や差別に対抗しうる手段になります。課題が山積する今だからこそ、2030年に向けた課題解決のために一人ひとりが具体的に何ができるのかを考え、積極的に地域に関わる活動をみんなですすめていきましょう。

*FEC自給圏…生活に欠かせない「食（Foods）」「エネルギー（Energy）」「福祉（Care）」のしくみを自分たちでつくり出す社会をめざす思想。内橋克人氏（評論家、旧2012国際協同組合年全国実行委員会・委員長）が提唱。